

お金の知識、資格で磨く 投資・年金・税...初心者も挑戦

[日経ヴェリタス](#)[フォローする](#)

2024年2月13日 4:00 [会員限定記事]

保存



新しい少額投資非課税制度（NISA）が始まり、老後など将来に向けたお金の準備に関心が高まっている。そんな中、知識やスキルを身につけるのに役立つのがマネーに関する資格・検定試験の活用だ。金融機関の職員が主に受験するものの中にも、初心者にも取得しやすいものは多い。合格を目指して学ぶことが豊かなマネーライフにつながるかもしれない。

「新NISAの始動に伴い、特に若い世代の間でファイナンシャル・プランニング技能士の資格への関心が高まったと感じる」。資格スクール大手、[TAC](#)の児玉晋さんはこう話す。

同資格は一般にFP（ファイナンシャル・プランナー）と呼ばれる。年金・投資・税金などお金に関する幅広い分野の知識が身につけていることを示す資格だ。金融財政

事情研究会と日本FP協会の2団体が運営し1～3級がある。人気の高い2級・3級の近年の受験者数は合わせて年30数万人に達する。

FP3級、9割以上が自己啓発のため

金融機関の職員が技能を向上させたりFPとして開業を目指すために取得したりすることが多い一方で、自分自身の家計管理や資産形成に役立てるための受験も広がっている。特に入門のFP3級は「講座に申し込む人の9割以上が自己啓発のための受講」（TAC）と言う。

3級合格後にステップアップを図る人も多い。1月28日、東京・日本橋のFP2級の受験会場に行ってみた。試験の合間の昼休み、会場外でおにぎりを食べながら熱心にテキストを読んでいた高千穂大学商学部3年の男性は「就職活動の履歴書の資格欄にFP2級と書き込みたいし、将来の自分の資産形成にも役立てたい」と話す。

お金に関する資格検定はFP以外にも様々なものがある。総合的な知識を問われるのはFPだけだが、投資や財務、税金、相続といった特定分野の資格・検定も多い。

お金に関する基礎知識を磨ける資格・検定				
資格・検定名	実施団体	こんなことを学ぶ	受験形態	受験料
総合的な知識				
FP技能士3級	金融財政事情研究会・日本FP協会	年金・投資・税などマネー全般	CBT	8000円
経理・財務の知識				
簿記検定3級	日本商工会議所	お金の収支や資産・負債の管理	統一試験、CBT	2850円※
ビジネス会計検定3級	大阪商工会議所	財務諸表の読み方や分析手法	統一試験	4950円
証券投資の知識				
証券外務員	日本証券業協会	証券投資の仕組みや経済の常識	CBT	1万3860円
年金に関する知識				
DCプランナー2級	金融財政事情研究会・日本商工会議所	公的年金や企業年金など年金全般の仕組み	CBT	7700円
年金アドバイザー3級・4級	銀行業務検定協会	年金制度や老後のライフプラン	統一試験、CBT	4950円(4級)
相続に関する知識				
相続診断士	相続診断協会	遺言書や遺産分割などのルール	CBT	3万8500円
相続アドバイザー3級	銀行業務検定協会	相続に関する手続きなど	統一試験、CBT	5500円
税金の知識				
税務3級・4級	銀行業務検定協会	所得税や相続税・贈与税が中心	統一試験、CBT	4950円(4級)

受験料は個人申し込みの場合。相続診断士はテキストやウェブ講義動画などを含む。※2024年度から3300円

知名度が最も高いのは日本商工会議所（日商）が実施する簿記検定1～3級だろう。企業の経理・財務に関する知識を問う。受験動機で最も多いのは「業務に必要なスキルの向上」で、2級・3級は受験者の30%を占める。一方で「自己啓発のためという回答も20%にのぼる」と日商の菊川裕司さんは話す。

簿記の知識が企業会計にとどまらず、日常の家計などに広く役立つと説く声は多い。ある資格スクールで簿記の講座を教える50歳代の男性は「例えば高額な洗濯機や冷

蔵庫を買ったときに、耐用年数10年の固定資産として考え、毎年1割ずつ費用計上するといった簿記的な発想は家計でも大切」と指摘する。「月給から家電の代金を差し引いて、今月は大赤字だと嘆くような家計管理は合理的でない」というわけだ。

簿記の知識で決算書読み込む

簿記の知識を持って上場企業の決算書を読み込み、株式投資の銘柄選びに役立てる投資家は少なくない。こうした知識を身につけるには「ビジネス会計検定」もある。大阪商工会議所独自の試験で、財務諸表の知識や分析力を問う。簿記と同様に1~3級がある。

年金関連ではDCプランナーが実用的な知識を身につけるのに向く。DCは確定拠出年金の意味だが、試験内容は年金全般をカバーする。

マネー関連でも相続は数多くの資格・検定がひしめき合う分野。その中で資格ビジネス関係者らが一目置くのが2011年に登場した相続診断士だ。合格者は累計4万8000人。「円満な相続」を主眼に遺言書や遺産分割の基礎知識が身につくことで人気化した。



金融機関の職員向けの資格・検定にも誰もが受けられるものがある。銀行業務検定協会の試験はその代表例。税務、年金アドバイザー、相続アドバイザーなどに分かれ、3~4級が日常の身近なマネースキル向上に向く。「初心者はまず4級レベルからが勧め」（八重樫純生さん）という。

日本証券業協会が実施する証券外務員試験も、金融機関職員向けの定番だが、今は一般の人が受験可能。金融商品や証券市場に関する基礎知識を問う二種、デリバティブ取引も含む専門的な知識を問う一種がある。

試験、CBT方式に一本化も

最近の資格・検定の受験では試験の形態も重要ポイントだ。従来は、事前に告知された日時に指定会場に受験生が集まるのが常識だったが、最近ではCBT方式が急速に広がっている。

CBTはComputer Based Testingの略。受験生が希望の会場と日時を決め、会場の1人用ブースに座り、机上のパソコンの画面に出る問題を解く。受験申し込みが随時可能で、3、4日後には試験が受けられ、受験直後に合否が判明するのが一般的だ。

DCプランナーは既にCBTのみとなり、簿記検定2級・3級は従来型の一斉受験とCBT方式を併用する。さらにFP3級の一斉試験は1月28日が最後で、4月からCBT方式に全面的に移行する。受験する際は、筆記用具を使わずパソコン相手に試験を解き進める練習をしておいた方がいいだろう。

マネーを取り巻く環境は刻々と変化する。合格して終わりではなく継続して学び続け、スキルを磨きたい。

金融の新資格、3月にスタート

資産運用関係者などから注目を集めそうな新資格が3月にスタートする。日本証券アナリスト協会が実施する「資産形成コンサルタント」だ。狙ったわけではないが新NISA開始年に始動となり「時代の風に乗れた感がある」と同協会専務理事の神津多可思さんは話す。

主に金融機関で顧客と接する職員が、資格取得を通じ顧客のライフプランや資産ポートフォリオづくりなどで質の高い提案ができるようにする狙いだ。試験で問うのはFP2級レベルの金融資産運用に関する分野を深掘りした知識で、ポートフォリオ理論、証券投資などを含む。

これらは金融機関の販売担当だけでなく、利用する顧客側にも大切な知識だ。投資先商品の組み合わせを考える際に参考になるし、金融機関の販売員の言うことがどんな意味を持つのか理解し、提案が希望に合うか判断するのに役立つだろう。

資産形成コンサルタントの試験の概要(3月開始)

CBT方式

試験時間 90分で40問を解く

受験料9900円



受験資格に制限はない。同協会では「だれもが資産形成に関心を持たねばならない時代になった。中でも学ぶ時間が取りやすい大学生には挑戦してほしい」（神津さん）と期待する。

同協会が運営するメインの資格は証券アナリスト（CMA）だ。株や債券の高度な運用知識などを問い、ファンドマネジャーを目指す人ら金融業界の関係者が中心に受験する。協会指定の教材で学ぶことが前提で、まず1次試験に合格した後で2次試験を受験する必要があるため、取得には時間も費用もかかる。一般投資家が自身の資産運用に生かす観点からは知らなくても問題ない内容もある。

一方、資産形成コンサルタントは一般の人々にとってより実用的な内容になる。証券アナリスト1次レベルより難易度を下げ、教材購入の義務もない。CBT形式で受験の申し込みは随時可能。全国300余りの会場で受けられるという。

ただ、新しい資格試験なので受験対策をやや進めにくい面はある。協会は公式テキストの書籍を市販しており、出題はテキストに準拠して行われる。試験開始までに問題集も発売する予定だ。

CBT試験を受けてみた 合否すぐ判明

資格検定でCBT試験が急速に広がっている。筆者（61）は決まった日時に会場で一斉受験する従来型の試験しか経験がない。そこで2023年末、記事を書く上でも「まずは自ら受験すべし」と思い立った。選んだのは銀行業務検定協会の税務3級。会社勤めを終えたら日常生活で税の知識が必要な場面が増えるとかねて思っていたためだ。

書店でテキストを買って正月休みから勉強開始。空き時間に過去の問題を解く。合格ラインの60点に手が届くと思えた1月18日、検定協会のウェブサイトから受験を申し

込んだ。

まずは会場と受験日を選ぶ。「東京」の会場は20以上の候補地があった。自宅から行きやすいJR飯田橋駅近くに決めた。受験日は最も近い3日後の1月21日の日曜日とする。あまり早起しなくても済むよう開始時間は午前11時とした。受験地も日時も自分で選べるのは新鮮な感覚だ。受験料の5500円はクレジットカードで決済。ここまで10分ほどで終わった。

当日は朝から雨。遅刻したら受験できないので早めに出かけ、30分余り前に会場に着いた。1階にコンビニエンスストアがある雑居ビルの3階が「テストセンター」だ。

CBT方式の受験の特徴(一般的なケース)

随時申し込み。日時・会場は自分で決める

申込日から最短で3~4日後に受験

出題・回答はパソコン画面で

試験終了の直後に合否判明

受付窓口に行くと、時間前だが係員が「すぐ受験できます」と言う。身分証明のため運転免許証を提示。係員の指示通り携帯電話と腕時計をかばんにしまって会場に入った。机に簡単な仕切りを置いた40余りのブースが所狭しと並び、窓口で指定された番号の席に座る。右隣は男性、真後ろは女性が受験中だ。

卓上のパソコンをマニュアル通りに操作し試験開始だ。画面に出る問題の答えを5つの選択肢から選び、マウスでクリックして回答する。計算問題ではパソコン画面の電卓を使用する。

試験時間は120分だが、30分以上残して終えた。試験終了の確認ボタンをクリックすると、すぐ画面が変わり「合格」の文字と得点が表示された。緊張する間も合格を念

じる間もなく、あっけない。再び窓口に向かい、試験結果レポートをもらう。

退席時に会場内を見渡すとブースの7割くらいが埋まっていた。20代や30代が多い印象。黙々とパソコンに向かう人たちが受ける試験は各人違う。ユニークな空間だ。

受験という割には「軽い」「ゆるい」と感じるものの、日時や場所を選べる利点は大きい。マウスでの回答は解き進めるうちに慣れてきた。不合格でも短期間で再挑戦できるのもいい。

ただし受験料が安いわけではない。合格までの受験回数が最小で済むよう計画的に学ぶ姿勢が大切であることは、従来型の試験と変わらない。

取得の手間・コストも考慮して

マネックス証券マネックス・ユニバーシティ室長 福島理さん

個人投資家向けに教育・啓発業務に取り組む中で、資格にチャレンジすることが有効だと感じている。資産運用の成果を高めるには豊富な知識を身につけることが大切だ。そのために資格・検定試験を目標に置いて勉強するのは良い方法だろう。

私は、かつて印刷機械メーカーに勤務しており、株式運用に取り組む中で証券外務員の資格を取った。証券会社への転職を希望していた事情もあったが、自身の資産運用にも役立った。様々な金融商品の仕組みや存在意義、売買の方法、税制、投資指標など基本を学んだ。証券外務員試験は一般の人でも受験でき、実践的な良問が多く、資産運用に本格的に取り組みたい人には一案だ。

転職後に国際認定テクニカルアナリストの資格を取った。金融商品の値動きを示すチャートの分析などを問われる。担当する投資教育の業務に役立てるのが第一の目的で、投資家に株価チャートの見方などを説明するのはもちろん、これも自分の資産運用にも生かしている。

お金に関連する資格・検定試験は数多くあり、その中から自分に合うものを選べばいい。人気の高いFPは、初心者が比較的学びやすいだろう。

ただし、時間をかけて細かな法律の条文などを覚えなければならない資格は、目的が起業や転職ならともかく、日常のマネースキルを磨くという観点からすると効率が悪いかもしれない。資格取得の手間やコストと、どれくらい資産運用や家計の実践に役立つかを考慮して、上手に学んでほしい。